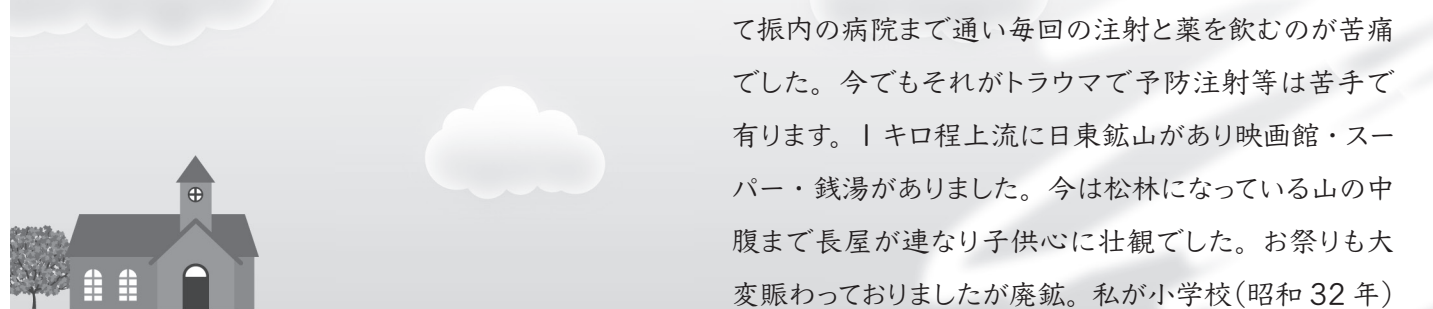




仁世宇川が沙流川に合流する地点より 800 m 程上流域で生まれ育ちました。両親は道内で雪が少なく温暖な地を求めて来たと話しておりました。夏はヤマベ・ウグイ釣り、小川でドジョウ取り、ビー玉遊び、野球、農作業もしました。冬は山スキー・雪スケート・雪合戦を長靴に雪が入っても寒さ知らずで楽しみました。国道も現在より仁世宇川を迂回しており、小学校通学時吹雪の時など道南バスに親切に無料で乗せていただきました。又小学校 4 ～ 5 年次病弱の為、週 1 回早退をし

て振内の病院まで通い毎回の注射と薬を飲むのが苦痛でした。今でもそれがトラウマで予防注射等は苦手です。1 キロ程上流に日東鉱山があり映画館・スーパー・銭湯がありました。今は松林になっている山の中腹まで長屋が連なり子供心に壮観でした。お祭りも大変賑わっていましたが廃鉱。私が小学校(昭和 32 年)入学時 51 名でしたが卒業時は 22 名にまで減り岩知志中学に進学したのは 18 名と記憶しており、寂しい思いを致しました。

中学・高校とバイトの草取り・草刈・川の石取・木の切りだし・振内のブロック工場等々楽しい思い出です。有りますと共に体が覚えており今でも日常生活に役立つております。

校歌として歌い仰ぎ続けた我が幌尻岳は 20 歳の記念に登りましたが今一度との思いで今日に至っております。

会員募集

新規会員の勧誘をお願いします。

以下にご連絡をお願いします。

・平取町役場まちづくり課広報広聴係

〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町 28 番地

TEL：01457-2-2222 (直通)

FAX：01457-2-2277

koho.kocho@town.biratori.lg.jp

・北海道びらとり会会長 廿日岩 久典

〒343-0046 埼玉県越谷市弥栄町 4-1-287

TEL/FAX：048-976-8728

携帯 090-3246-4858

h-hisa@rg8.so-net.ne.jp

・北海道びらとり会事務局長 須藤 孝夫

〒344-0038 埼玉県春日部市大沼 4-43-2-306

TEL/FAX：048-735-6329

携帯 090-8344-3938

sudo2689@lagoon.ocn.ne.jp

ふるさと納税のお願い

私達は平取町への応援の一環として、平取町への「ふるさと納税」を推進しています。平取町のホームページ「暮らし・手続」にアクセスするか、又は下記にお問い合わせください。皆様のご協力をお願いします。

〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町 28 番地

平取町役場 観光商工課 商工労働係

TEL:01457-3-7703

FAX:01457-2-2277

E-mail:b.furusato@town.biratori.hokkaido.jp

編集後記

今年の総会は 4 月 18 日(土)です。是非ご参加をお願いします。昨年 10 月に平取町で開催された「びらとり会」の交流会では、いろんな方とお会いしました。振内小・中学校で遊び仲間であった同級生の妹さんが副議長の松澤さんであったこと、振内の実家近くにお住まいだった佐藤さんのお兄さんそして便りを一緒に作っている泉さんの父上が札幌びらとり会長の石川さんであったことなど、様々な出会いがありました。交流会を企画していただいた平取町に感謝です。(廿日岩)

東京 北海道びらとり会便り

2020.2.10

06 号

「北海道びらとり会便り」第 6 号では、2020 年度総会のご案内、昨年 10 月に開催されたびらとり会交流会のご報告、平取町で YOSAKOI ソーランを通じて地域活動を行っている「平取義経なるこ会」の紹介、須藤 孝夫さん(岩知志)ご執筆の「故郷の思い出」、昨年 10、11 月に都内で開催された平取町の物産展のご報告などを掲載しました。

今年の総会は4月18日(土)

2020 年度北海道びらとり会総会は、下記の要領で開催いたします。多くの皆様のご参加をお願いします。

日時：4 月 18 日(土)

総会・懇親会：14:00 ～ 17:00

場所：銀座 POP ROAD(ポップロード)

中央区銀座 1-6-16

銀座 1616 ビル地下 1 階

TEL:03-3562-8088

東京メトロ有楽町線 銀座 1 丁目駅 5 番出口徒歩 1 分、

丸の内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 徒歩 7 分、

銀座線 京橋駅 2 番出口徒歩 4 分

JR 山手線有楽町駅 徒歩 6 分

会費：5,500 円

内訳：懇親会費：5,000 円 会費：500 円

「北海道びらとり会」は、関東圏在住者で平取町出身者及び平取町にゆかりのある方の交流と親睦を図るともに平取町の振興発展に寄与することを目的に設立された会で、北海道に平取町という町が存在することをわかってもらおうという思いを込めて「北海道びらとり会」と命名しました。

発行：北海道びらとり会

発行日：2020 年 2 月 10 日

会場は、2018 年に総会・懇親会を開催した所です。今回も川上町長をはじめ平取町の方も出席されます。現在の町の状況や取り組みなど最新の情報をお聞きすることが出来ます。今年は役員任期(2 年)の中間期ですので、活動報告などは簡単に済ませ、話題提供として「私の生まれ育ったところ」と題して本町と振内町出身の方から昔の写真などを使ってお話をしていただくコーナーを企画しました。ご期待ください。また、会員の皆様には懇親会の場をクラス会や同窓会にご利用ください。まだ会員登録をされていない友人、知人がおられましたらご案内頂きお誘いをお願いします。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

平取町120年記念びらとり会交流会

交流会は、2019 年 10 月 19 日(土)、14 時より本町中央公民館で開催されました。苫小牧からは 25 名、札幌からは 26 名、当会からは 4 名(高橋 直人、山口 繁、須藤 孝夫、廿日岩 久典)そして平取町からは川上町長をはじめ町議会議員、農業協同組合、商工会、各地区の自治会長、名誉町民、教育委員会や役場のかた等 20 名の計 75 名が出席しました。交流会次第は、以下のとおりです。

- ・挨拶 平取町長 川上 満
- ・来賓祝辞 北海道びらとり会 会長 廿日岩 久典
- ・祝盃 札幌びらとり会 会長 石川 文雄
- ・祝宴
- ・よさこいソーラン演舞 平取義経なるこ会
 - ・ふるさと合唱
 - ・万歳三唱 苫小牧びらとり会 会長 田中 稔





川上町長からは、「平取町120年の節目の年に平取国民健康保険病院のリニューアルオープン、二風谷地区のアイヌ文化発信施設の整備そしてアイヌ工芸伝承館（ウレシパ）の開館に触れられ、これからも子供たちへ未来を笑顔で繋ぐことが出来るよう、また、皆様の変わらない故郷であり続けるよう努力をしてまいります」と力強いお言葉がありました。廿日岩会長からは、「近隣の町の名前が変わっていく中、平取の名前で120年を迎えたこと、平成の大合併に安易に組みせず独自路線を貫いたことは、平取町を故郷とする者にとって誇りに思うとし、二風谷地区の素晴らしい施設を目の当たりにして、平取町の底力を改めて感じました」と話しました。札幌びらとり会 会長石川文雄さんの乾杯の音頭で祝宴が始まりました。昼食は和牛やトマトなど平取の特産品をふんだんに使った懐かしい「味処いこい」（本町）のお弁当が用意され、美味しく食べました。会場には、平取町内の昔の写真などが飾られて、皆さんが懐かしく見入っていました。その中に北海道びらとり会便り第5号も広報・広聴係の以頭さんのご厚意で紹介されていました。宴も半ばになったところで、平取義経なるこ会によるYOSAKOIソーラン演舞が披露されました。力強い演舞に感激し、中にはおひねりを投げ込む方もおりました。本号で平取義経なるこ会を紹介します。

宴も終盤となり、参加者全員が手を繋ぎ会場いっぱいに円を描き「ふるさと」を合唱しました。16時過ぎ、苫小牧びらとり会 会長田中稔さんのご発声による万歳三唱で会はお開きとなりました。

各地区のびらとり会の方々や平取町の方々と色々なお話が出来たことなど有意義な時間を過ごすことが出来ました。

町内施設見学

交流会に先立ち、交流会参加の各びらとり会全員が11時30分より役場の方々にご案内を頂き、二風谷のアイヌ文化発信施設及び義経神社を見学しました。

川上町長によると、平取町は、2016年度から2018年度にかけアイヌ文化博物館前の駐車場だった敷地の一部をせせらぎや池を配置した芝生広場として整備し、チセ（家）やカフェ（新設）を配置、国道沿いにはメインサインを、トイレも新設し、2019年4月、既存の施設にアイヌ工芸伝承館（ウレシパ）を加え、新たな二風谷コタンをオープンさせたとのこと。会員の皆様には北海道旅行の際には是非お立ち寄りください。必見です。

平取町アイヌ工芸伝承館（ウレシパ・urespa）
木のぬくもりを感じる館内で、アイヌ木彫りに魅せられて横浜から移住して6年という職員の方から説明を受けました。ウレシパはアイヌ語で「育て合う」を意味し、当館の目的は、アイヌ工芸の担い手を育てること、アイヌ工芸の生産性の効率化（最新技術の導入）、都市農村交流の促進（都市部から多くの人に来てもらい滞在時間や日数を増やしてもらい地域活性化を図る）とのこと。当日は、最新のレーザー加工機によるアイヌ文様の作成を体験しました。

二風谷アイヌ文化博物館

平取町出身の学芸員の方から説明を受けました。アイヌ文化を正しく受け継ぎ、未来へ伝えていくことを目的に、1992年に開館、建物の特徴的なデザインは、木の洞にアイヌの民具という宝が収まっているというイメージだそうです。

アイヌ研究家の萱野 茂氏（元参議院議員）や同氏が中心となって収集した資料が展示されており、博物館が所蔵する資料は3,000～5,000点あるそうで、その一部を展示、900点余りは国指定の重要有形民俗文化財に指定されている。開館以来の入場者数は延べ60万人を超え、関西からの修学旅行生が年々増加、今年（2019年）は既に目標入場者数2万人／年を超えている。展示スペースは、「人々の暮らし」「神々のロマン」「大地の恵み」「造形の伝統」の四つに分けられており、様々な民具に触れながら学ぶことが出来ます。

義経神社

九州から来られたという宮司の方から説明を受けました。義経神社を守ってきたのはアイヌの人達で、アイヌの人達が関わった神社は他にない。当神社は、1799年に幕臣近藤重蔵が義経公のご神像を平取の地に寄進したことに起源を発し、2019年は220年の節目の年で、修復された御神像を初公開した。2020年以降は5年毎に特別開帳・拝観予定とのこと。参加者全員がお祓いを受け、神社を後にしました。

平取義経なるこ会

交流会で素晴らしい演舞を披露して頂いた「平取義経なるこ会」（以下、なるこ会）について、当会の会長である松沢以久子（町議会副議長）さんよりお話を伺いました。

当会は、川上町長が社会福祉協議会に在職中に他の町のYOSAKOIを見て感銘を受け、我が町にもと商工会婦人部、JA婦人部に声をかけ1995年10月に設立。日高管内に演舞団が14団体あったが、現在も活動が続いているのは唯一、平取町の「なるこ会」のみ。設立当初は踊り子だけでも100名以上いたが、現在では42名（女性33名、男性9名、7歳～62歳）と会員数は減っていますが、2019年も6月に毎年札幌で開催される全国的に有名なYOSAKOIソーラン祭りには出場、これまで連続で23回出場している。練習は、本町中央公民館で週1回、5、6月は週3回、12～2月は休みで、メンバーの主体は町内在住者ですが、就職、進学で町を離れた人も加わっている。年間の演舞回数は、町内外で14回位、義経神社例大祭、びらとり沙流川まつり等のお祭りや福祉施設、養護施設などで演舞を披露しており、地域に根付いた活動を展開している。町からは練習



場の無償提供や町外に遠征する際の町有バスの運行、広報誌への掲載など様々な支援を受けているとして、今後もYOSAKOIソーランを通じて地域活動を継続していきたいと話されました。

人口5千人たらずの小さな町にこのような素晴らしい踊りの集団があるのかと、ここでもまた平取町の底力を感じました。人口減少に伴い会員の確保が大変でしょうが、なるこ会の活動の継続を願って止みません。益々のご活躍をお祈りします。平取町役場広報公聴係のfacebookに演舞がアップされています。是非ご覧ください。



2019年に開催された平取町の物産展

文京博覧会 2019 は、2019年11月15、16日の二日間、文京シビックセンターで開催されました。平取町からはトマトジュースのみの出店でしたが、16日（土）の午前中には完売し昨年を大きく上回る売上だったようです。

なまらいいっしょ北海道フェア 2019 は、12月14、15の二日間、三軒茶屋ふれあい広場で開催されました。平取町からは、振内町にある「じゃんけんぽん」さんが「びらとり和牛」による和牛ハンバーグをもって出店しました。大変な賑わいで、びらとり会の方々に声を掛けられ励みになりましたとのコメントを頂きました。

